

■R03.03.01 記者会見内容

日時 令和3年3月1日(月)午前11時～午前11時15分

場所 第1委員会室

出席 市長、総務部長、企画部長、企画調整課長

酒田記者クラブ8社(山形新聞、荘内日報、読売新聞、河北新報、朝日新聞、毎日新聞、NHK、TUY)

■市長発表事項

なし

■懇談・フリー質問

記者／私の方から代表質問ということでお願いします。先日、遊佐沖に加えて酒田沖が洋上風力の事業化を目指すことにしたとの発表があった。これについて市長の所感をお願いしたい。

市長／これから具体的に準備作業に入っていくと思う。報道にもあったが、昨年8月に酒田港の振興も含めてということになるが、遊佐沖について港湾区域内、それから酒田沖での洋上風力についても進めていただきたいという要望を知事にしたところだった。そういった流れからすると、今回の研究検討会議の中で、来年度酒田部会を立ち上げて検討を始めるということが、県の当局からお示していただいたということは、大変ありがたいと思っている。実際に促進区域に指定されるまで一定程度時間を要するし、更にその先に事業化ということになれば、10年以上も先の話ということも十分承知している。まずは検討の中で地元の皆さんと調整をしながら、地域経済、あるいは雇用とか、港湾の振興に寄与するような洋上風力発電というものが、この酒田沖でも展開されることに非常に期待をしたいと思っている。

記者／今、県議会開会中で微妙な時期だと思うが、副知事人事案についての所感を聞かせたい。

市長／この件に関しては県の当局と県議会の問題なので、私としては特にコメントすべき内容ではないと思っている。特に私の方としては何のコメントも意見も基本的にはない。しっかりと議論をして適任にあたる方を選んでいただけたらいいと思っている。

記者／先月12日に酒田市内の中学校の敷地の方で、建物の4階から生徒が転落して死亡されたという事案があったが、その件について市長の方に何か教育委員会から情報が入ってきたり、現段階でお話できることはあるか。

市長／事実関係の事は報告を受けている。その原因を含めた詳細については、情報としては伺っていないのでコメントのしようがない。亡くなられた方に対してはご冥福をお祈りしたいという気持ちしか、残念ながら述べることができなくて申し訳ない。教育委

員会の方としては、保護者の方々とも話をしながら今事実関係の確認をしているという報告しか受けていないので、何とも言いようがないというのが正直なところ。

記者／その当時からこれまでに学校の方で例えばPTA会議とか、個別に開かれたとか何か聞かれているか。

市長／その辺については情報を知り得ていない。

記者／今回の調査で学校の中でトラブルがあったとか何か聞いていないか。

市長／聞いていない。その詳細については確認していないので、教育委員会のほうに取材していただくしかないと思っている。

記者／洋上風力関係でネックになっている石炭火力発電所の問題があると思うが、いずれその役割を終えるということだと思うが、今のところ予定は決まっているわけではないのか。

市長／決まっていない。

記者／今の施設の老朽化もあったり、当然脱炭素という流れからすれば、いずれは役割を終えるだろうという想定はしておかなければいけないというのは市としてのスタンスか。それとも具体的に何かいつまでということを考えてやっているのか。

市長／酒田共同火力発電が地元の経済、もっと具体的に言うと雇用だとかあるいは従業員の方々が給与をもらって、そこで消費をされることによる地元経済への影響、あるいは施設、プラントを持っているのでその地方税収入というのが非常に大きな影響を及ぼしている。基本的には存続をしていただくことは願っている。ただゼロカーボン山形2050宣言もあるし、国の流れからするとこれから先の存続についてはちょっと不透明。そういう話が具体的に出てきたときにでもこの地域に一定程度経済基盤をしっかりと確立するためには、洋上風力発電という産業がここにあるということは大きな力になるだろうという思いから、何とか酒田港も重要な意味を持ってくる。基地港湾にしてみらうためにも洋上風力発電というのが必要だということで、お願いをした経緯がある。直接的にこの洋上風力と酒田共同火力発電の今後というものが結びつくものではないと思うが、ゼロカーボンという時代の流れの中ではどうしても関わってくるので、なんらかの影響はそれぞれ出てくる。洋上風力にしても共同火力にしても存続には色々な影響が出てくるだろうという思いでいる。昨年8月に県知事に要望へ行ったときも、この2つは絡めて実際は要望した。2050年になって石炭火力がこの地域に全体に残っているか保証はない。そういったことも見据えながら、この地域の経済基盤をしっかりと支えるような産業として洋上風力、あるいは港の振興のためにも洋上風力があつたらいいという話をさせていただいた。関りがなければいけないが、この2つはこの地域にとって大きな影響を及ぼすという前提で話をさせていただいた。

記者／加えて風力というと企業局と一緒にいる風力発電の方も雪とか風とか暴風雪の影響で色々な予定が延び延びになっているが、具体的に今のところどういうスケジュールになっているのか。

市長／4月1日から発電を開始する予定でいる。試運転はやった。かなり風が強く結構いい収益になるという話のようなので、今回の施政方針の中でも言ったが、この風力発電事業でもたらされる収益、これは市の財源として有効に活用していきたいと思っている。稼働率と言うか、発電する日にちが1日でも多ければいいと思っている。

記者／セレモニー的なものはないのか。そういったものがはっきりしなかったの。

市長／セレモニーの日程は延びた。一回中止になってまだ決めてない。ただそんなに大々的にやらなくても、もう回っているので、どんどん収益が上がるという思いで風力発電については見守っている。令和3年度に向けてはしかるべき日にしっかりと供用開始式というものをやらなければいけないかなと思っている。

記者／改めてというのは年度が変わってからという話か。

市長／確か竣工式は一緒にやっていない。同じ事業ではないので。

記者／供用開始の方はなるべく一緒にやるということか。

市長／一緒じゃなくてもいいと思っている。そもそも別事業なので。一緒じゃなくてもいいと思っているが、2月9日から延びたのは県の主催のものだった。実はあまり一緒にやることはこだわってなかった。なぜかという、そもそも別の事業ということで、発電時期、発電収入がちょっと性格が違う。向こうは企業局、公営事業としてやる。うちの方は基本的には特別会計を設けるが、一般財源で活用することを前提にしていたので、事業の性格も少し違うので、必ずしも一緒にしなくてもいいのではないかなという思いで実はいたものですから、検討させていただく。県の方で一緒にやるということであれば、招かれて供用開始式に出る予定でいた。今になってまだ日にちが決まっていなるとなると、本当にやるのか、多分やるんだと思う。そのうち案内が来ると思うが、できれば一緒にやらせてもらってもいいのかなというイメージを持っている。